



## 憲法改正について

高木善之

安倍首相の訪米後、憲法改正の動きが活発になってきた。  
その流れをまとめた。

### ●安倍首相の訪米

4月下旬安倍首相は訪米、とんでもない約束をしてきた。  
要約すると「アメリカの敵は日本の敵。アメリカと共に戦う。特に中国の進出に対して共に戦う。夏までに法制化する」と約束したのだ。それもオバマ大統領との会談だけではなく、米国議会で英語で宣言したのだ。

### ●日本は平和国家

首相がアメリカで演説したことは、日本の「平和憲法」に反することだし、一首相の好みや思い付きで、国の根幹は変えられるものではない。  
しかし安倍首相は勝手な「憲法解釈」を重ね、勝手な「閣議決定」をやり、与党内で話を進めている。そして国会議論の前に訪米し、とんでもない演説をやったのだ。それに関わらず、野党もメディアも国民も大きな動きはない。  
この国は、いったいどうなっているのだろう。

### ●憲法は遵守しなければならない

平和憲法（憲法9条）には「軍隊を持たない。戦争をしない」と明記されている。日本は平和憲法に守られて戦後70年間、戦争に巻き込まれず、どことも戦わず、1人の戦死者も出さず、経済成長を享受できたのだ。  
平和憲法は日本の根幹であり、絶対に捨ててはいけないのだ。  
しかし日本には自衛隊があり、憲法と現実がずれているという問題がある。

### ●自衛隊の存在

憲法では「軍隊を持たない」と規定しているが、1957年に自衛隊を作った。それには次のような経緯がある。  
1950年朝鮮戦争が勃発。日本に駐留していた米軍がほぼ全軍、朝鮮に出兵することになった。

1960年代の「東西の冷戦」は戦争は無かったが、世界中が「いつ核戦争が起こるか」わからない恐怖に脅えていた。安倍首相や側近たちは、あの時代を知らないだろうが、あれは決して平和ではない。むしろ最悪の時代だったのだ。

平和とは、戦争が無いだけではなく、もし戦争の原因が生じたならば平和的に解決できることなのだ。「平和的に解決する」とは、「話し合うこと、理解すること、歩み寄ること」なのだ。

安倍首相は、隣国との関係を悪化させ、話し合いもせず、主義主張を繰り返し、自衛隊の強化、アメリカとの軍事同盟の強化という真逆のことを進めている。

### ★「きれいごとでは平和は実現しない」と思う方へ

自然界に戦争はない。人間だけが戦争を続けているのは、なぜだろう。  
人間が賢いからか、愚かだからか。  
戦う努力と平和の努力、どちらが簡単だろう。どちらが幸せだろう。  
戦う勇気と戦わない勇気、どちらにやりがいがあるだろう。  
戦争と平和、どちらが本当に必要なだろう。  
それを転換しない限り、平和は実現しないだけでなく、大量破壊兵器が存在する現在、もう一度大きな戦争が起これば世界は終わるのだ。

### ●日本の現状

戦争とケンカはよく似ている。主義主張している限り問題は解決しない。「自分が正しい」と信じている限り、事態は悪化する。  
安倍首相も安倍政権も与党も、この初歩的な間違いを続けている。  
それを正すための「三権分立」も「メディアの体制批判」も機能不全に陥っている。テレ朝の報道ステーションも、「・・・という意見もあります」「・・・ということをおっしゃる方もいます」と気持ちの悪い表現に変わった。  
私たちが、国民がもっと声を上げなければならない。  
あらためて、次のことを明記したい。

日本は「平和憲法」に守られて戦後70年間、戦争に巻き込まれず、どことも戦わず、1人の戦死者も出さず、経済成長を享受できたのだ。  
「平和憲法」は日本の根幹であり、絶対に捨ててはいけないのだ。

マッカーサーは吉田茂首相に、治安維持のための「治安警察隊」（7万5千人）の設置を指示。

1950年、治安維持のために「警察予備隊」（7万5千人）が誕生。

1952年、「保安隊」に改編。朝鮮戦争に参戦できるように重装備化。

1954年、朝鮮戦争終結後、国防を任務とした「自衛隊」に改編。

日本国内では、「自衛隊は軍隊ではない」という解釈を続けてきたが、国際的には「自衛隊は軍隊であり、日本は陸海空三軍を持つ」とされている。

国際的な資料では「日本の国防費は世界で10位以内、日本の兵力は世界で10位前後」となっている。

### ●改憲について

9条の「戦力を持たない」とする文言と、世界有数の兵力である自衛隊の存在は不一致だ。この不一致を「解釈」によって認めている現状には問題がある。

しかし、さらに安倍政権がいま進めようとしている「解釈」は、自衛の枠を大きく逸脱し、アメリカと共に世界で戦うという危険なものだ。

こうした危険な「解釈」を封じるために、憲法と現状を一致させなければならないのではないだろうか。それには二つの方法がある。

### ★その1 9条を守り、自衛隊を武装解除する

現状の自衛隊は「国防」と「災害救援」の二つの任務を持っているが、「国防」の任務を解除（武装解除）、「災害救援」のみとして、「災害救援隊」に改編する。

### ★その2 9条に「自衛」を明記する

1. 日本は、非武装中立、非戦を宣言する。
2. 日本は、自衛のための戦力を保持する。
3. 日本は、国土と国民の防衛、自衛以外の戦いに参加しない。

『地球村』は「その1」を支持する。

もしも改憲するならば、「その2」を許容する。

### ●平和とは

平和とは、単に戦争が無い状態でも、武力で戦争を抑えている状態でもない。

## Life わたしの「地球村」

『地球村』の生き方や日々の気付きについて、会員の方から投稿されたものをご紹介します☆

★映画「独裁者」感動のスピーチ

北海道 木下弘美

最近の日本政府の動きを見ていると、心配なことばかりがニュースから流れてきます。安倍首相の訪米時のスピーチの映像を見て独裁者という言葉が頭によぎりました。

チャップリンが描いた映画「独裁者」。ラストシーンで独裁者ヒンケルと入れ替わった床屋のチャーリー（チャップリン）が、世界平和と愛を語ります。そのスピーチに込められた決意と深いメッセージに大きな感動と希望をもらいました。

“人生は美しく自由であり、素晴らしいものだ！”この言葉だけで涙があふれます。それ以上に1940年という時代にこのメッセージを世に送ってくれたチャップリンの存在に大きな希望を感じます。世界で核実験が行われるたびに広島市長が抗議の電報を送り続けていることを知ったときと似た感動です。ひとりの願いは、時代を超え、海を越え、人々の心に灯りをともして行く。

私たちは、相手に憎しみを持っていないだろうか。知識を持ち過ぎて安心を失っていないだろうか。思いやりを忘れて暴力を放っていないだろうか。よき世界のために立ちあがれているのだろうか。あきらめていないだろうか。

「平和な世界を子どもたちに」「美しい地球を子どもたちに」助け合い、思いやり、慈しみあいながら、よりよい未来をつくっていきたくて願っています。

◆「独裁者 床屋の演説(日本語)」抜粋 ⇒ <https://youtu.be/ObOLrMGKkfk>

人類は互いに助け合うべきである。  
他人の幸福を念願として、  
互いに憎しみ合ったりしてはならない。

人生は自由で楽しいはずであるのに、  
貪欲が人類を毒し、憎悪をもたらし、  
悲劇と流血を招いた。

機械は莫富の差を作り、  
知識を得て人類は懐疑的になった。  
知識より思いやりが必要である。  
思いやりがないと暴力だけが残る。

人々は失望してはならない。  
自由は決して失われぬ！

諸君は機械ではない！人間だ！  
心に愛を抱いている！  
愛を知らぬ者だけが憎しみ合うのだ！  
諸君は幸福を生み出す力を持っている。

人生は美しく自由であり、素晴らしいものだ！  
世界に自由をもたらす、国境を取り除き、  
貪欲と憎悪を追放しよう！  
良識のために戦おう。

【高木善之氏と行く「平和WSツアー in 九州」(8月7日~10日)開催】  
特攻隊が飛び立った知覧、軍艦島、長崎平和式典めぐり平和を考えます。  
いっしょに行きましょう！お申込みは6月9日まで。 <http://xtw.me/Xu0p3nv>

